

■論点一覧

	論 点
1	<p>●外部評価の種類(方式) 第6次総合計画ではどのような方式で行うか。 【外部評価の種類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 分析強化型 ② 市民協働型(提案)
2	<p>●外部評価の対象 成果指標(数値)に基づく評価対象として考えられる分野・階層</p> <ul style="list-style-type: none"> ① まちづくり基本構想 まちづくり政策事務事業 ② えべつ未来戦略 戦略プロジェクト + 事務事業
3	<p>●外部評価の対象事業の選定方法</p>
4	<p>●外部評価作業の流れ</p>
5	<p>●外部評価の視点</p>

※ 3～5の論点整理表は、第3回委員会の議論を踏まえ、第4回委員会でお示します。

1. 論点

- 外部評価の種類（方式）
第6次総合計画ではどのような方式で行うか。
【外部評価の種類】
 - ① 分析強化型
 - ② 市民協働型（提案）

2. 論点の整理

- 第6次総合計画での外部評価方式について
 - ①分析強化型 行政内部の評価結果を検証し、評価の質を向上させる
 - ②市民協働型 事業結果を検証し、事業効果を高める改善を提案

【江別市行政評価外部評価委員会設置要綱】（市長決裁）
（目的）

第1条 江別市行政評価制度において、評価の客観性及び信頼性を確保するために、行政外部の専門家及び市民の視点で評価を行うことを目的として江別市行政評価外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

要綱を踏まえた検討案

- ① 案 評価視点の多角化により評価（Check）の質が向上し、より効果的な改善（Action）につなげる。評価作業の中で出た改善案については委員会意見として報告。
長所：評価表の審査に注力できるので、評価事業数は一定数確保でき、要綱の目的である信頼性と客観性を確保するという機能は高い。
短所：担当部局が改善方法を検討するため、既存の事業の枠組みから外れた改善案は出にくい。改善の効果が出るまで一定の時間を要する。
- ①+②案 分析強化型を基本にしつつ一部②の要素を取り入れ、必要な事業については外部評価委員会から具体的な事業改善（Action）案を提案
長所：評価（Check）の枠を超え、専門家や市民の視点で改善（Action）案を提案することができる。
短所：具体的な事業改善（Action）案を検討するため、委員会の作業負担が大きい。そのため、評価（Check）作業に割り当てられる時間が減少する。

3. メモ

1. 論点

- 外部評価の対象
成果指標（数値）に基づく評価対象として考えられる分野・階層
- ① まちづくり基本構想 まちづくり政策事務事業
- ② えべつ未来戦略 戦略プロジェクト + 事務事業

2. 論点の整理

【成果指標が設定されている分野・階層】

- ① まちづくり基本構想（まちづくり政策全事業） 事務事業 約430本
- ② えべつ未来戦略（短期集中で取組む事業） プロジェクト9本+事務事業42本

外部評価委員会の開催予定スケジュールは、市の内部評価終了後から、予算要求までの約2か月間に4～5回の開催となる。単年度で全事業を評価することは、限られた期間で精度の高い評価ができないことから、いずれの方式でも選定作業は発生する。

●第6次総合計画での外部評価対象について

- ①案 まちづくり政策の全事業から、毎年度評価対象事業を選定して外部評価

長所：総合計画全事業から重要と考えられる事業等を選んで評価できる。
短所：外部評価の対象とする事業を選定する負担が発生する。

- ②案 短期集中的に取り組む、えべつ未来戦略の全事業を外部評価する。

長所：戦略ごとに体系化（戦略－プロジェクト－事業）されているので、評価しやすい。
短所：戦略に入っていない事業や部局は、評価対象から外れる。

3. メモ